

データベースの概要

添付文書に記載されている投与禁忌の患者状態や投与部位などの投与制限に関するデータベースです。

併用薬や年齢などの条件の情報も保持しているため、付帯条件を加味した投与制限チェックを行うことが可能です。また、禁忌病名からの薬品の検索にもご利用いただけます。

本データベースは、医療用医薬品の添付文書に記載されている全ての投与制限に関する情報を網羅しています。

データベースの特徴

6段階のレベル分け

添付文書の禁忌をはじめとする注意喚起の情報を以下の6段階のレベルに区分しているため、選択したレベルの範囲でチェックを行うことが可能です。

添付文書の項目毎に情報を絞り込むことも可能です。

レベル	添付文書の記載表現
禁止	禁忌、禁止、投与しない、投与を避ける など
原則禁止	原則禁忌、原則として禁止、原則として投与しない など
相対禁止	有益性が危険性を上回る場合にのみ投与 など
希望禁止	投与しないことが望ましい など
慎重投与	慎重投与、慎重に投与する など
注意	注意、留意 など

高

低

例

患者情報として予め「消化性潰瘍」を登録しておく、「消化性潰瘍」に「禁忌」の『ロキソニン錠60mg』が処方された場合に、「禁止」のチェックがかかります。

『ロキソニン錠60mg』の添付文書（抜粋）

【禁忌】
消化性潰瘍のある患者〔プロスタグランジン生合成抑制により、胃の血流量が減少し消化性潰瘍が悪化することがある。〕（ただし、「慎重投与」の項参照）

『ロキソニン錠60mg』のデータ（概略）

レベル	患者属性
禁止	消化性潰瘍

禁止

表記が異なる同義語に対応

異なる表現の禁忌病名について同義語処理（シソーラス化）をしているため、検索やチェックを漏れなく行うことが可能です。

例

患者情報として予め「消化性潰瘍」を登録しておくと、「消化性潰瘍」の同義語である「狭窄性消化性潰瘍」に「禁忌」の『タベジール錠1mg』が処方された場合に、「禁止」のチェックがかります。

『タベジール錠1mg』の添付文書（抜粋）

【禁忌】
狭窄性消化性潰瘍又は幽門十二指腸閉塞のある患者〔抗コリン作用により消化管運動が抑制され、症状が悪化するおそれがある。〕

『タベジール錠1mg』のデータ（概略）

レベル	患者属性
禁止	狭窄性消化性潰瘍

同義語処理

消化性潰瘍
活動性消化性潰瘍
狭窄性消化性潰瘍
重篤な消化性潰瘍
消化性潰瘍<活動期>
非ステロイド性消炎鎮痛剤の長期投与による消化性潰瘍

同義語処理により
 表現が異なる禁忌
 病名もチェック

禁止

※胃潰瘍や十二指腸潰瘍などは消化性潰瘍と同義ではないため、同義語処理を行っていません。

豊富な検索キー

多数の検索キーを作成しているため、同義語から禁忌病名を検索するなど、多様な入力に対応しています。

例

「SLE」「えりてま」「ぜんしん」のどの検索キーからも、「全身性エリテマトーデス」と「SLE」を検索することが可能です。

禁忌病名のデータ（概略）

患者属性	検索キー
全身性エリテマトーデス	「ぜんしん」「えりてま」「SLE」
SLE	「SLE」「えすえる」「ぜんしん」「えりてま」

■ 禁忌項目以外の記載に対応

添付文書の【禁忌】以外の項目に患者状態や投与部位などの投与制限に関する記載がある場合についても、漏れなくチェックすることが可能です。

例

『ボスミン注1mg』の添付文書の【禁忌】【原則禁忌】の項目に「心原性ショック」の記載はありませんが、【重要な基本的注意】の項目に記載があるため、「心原性ショック」への使用は「禁止」となります。

『ボスミン注1mg』の添付文書（抜粋）

<p>【禁忌】(次の患者には投与しないこと)</p> <p>** 1. 次の薬剤を投与中の患者(「相互作用」の項参照)</p> <p>(1) プチロフェン系・フェノチアジン系等の抗精神病薬、α遮断薬(ただし、アナフィラキシーショックの救急治療時はこの限りでない。)</p> <p>(2) イソプレナリン塩酸塩等のカテコールアミン製剤、アドレナリン作動薬(ただし、蘇生等の緊急時はこの限りでない。)</p> <p>2. 狭隅角や前房が浅いなど眼圧上昇の素因のある患者(点眼・結膜下注射使用時)「閉塞隅角緑内障患者の発作</p> <p>「心原性ショック」の記載はありません</p>	<p>2. 重要な基本的注意</p> <p>(1) 本剤はアドレナリン受容体作動薬として、α受容体、β受容体それぞれに作用し、その作用は投与量、投与方法等に影響を受けやすいので注意すること。</p> <p>(2) 本剤はアナフィラキシーショックの救急治療の第一次選択剤であり、ショック時の循環動態を改善するが、その循環動態はショックを起こした原因及び病期により異なることがあるので、治療に際し本剤の選択、使用時期には十分注意すること。</p> <p>(3) 本剤は心筋酸素需要を増加させるため、心原性ショックや出血性・外傷性ショック時の使用は避けること。</p> <p>(4) 本剤には昇圧作用のほか血管収縮、気管支拡張作用等もあるので、ショックの初期治療後は他の昇圧薬を用いること。</p> <p>(5) 過度の昇圧反応を起こすことがあり、急性肺水腫、不整脈</p>
<p>▼</p>	
<p>【禁忌】の項目には記載がないものの、【重要な基本的注意】の項目の記載により『ボスミン注1mg』の「心原性ショック」への投与は禁止</p>	

付帯条件のある禁忌病名に対応

禁忌病名のチェックにおいて、併用薬や年齢などの「付帯条件」についても同時にチェックすることで、患者状態にあわせた、よりの確なチェックを行うことが可能です。

【付帯条件がある場合の例】 **肝機能障害患者でコルヒチンを投与中の患者**

患者属性 「肝機能障害」 + 付帯条件 「コルヒチンを投与中」

例

患者情報として予め「肝機能障害」を登録しておくこと、『クラリス錠200』が処方された場合に、コルヒチンの投与の有無を区別したチェックが可能です。

『クラリス錠200』の添付文書（抜粋）

【禁忌】

2. 3 **肝臓**又は腎臓に**障害**のある患者で**コルヒチンを投与中**の患者

【特定の背景を有する患者に関する注意】

9. 3 **肝機能障害**患者

肝機能障害を悪化させることがある。

9. 3. 1 **肝機能障害**患者で**コルヒチンを投与中**の患者

投与しないこと。コルヒチンの血中濃度上昇に伴う中毒症状が報告されている。

『クラリス錠200』のデータ（概略）

レベル	患者属性	条件（併用薬剤）
禁止	肝機能障害	コルヒチン錠0.5mg「タカタ」 （成分：コルヒチン）
注意	肝機能障害	-

「肝機能障害」で『コルヒチン錠0.5mg「タカタ」』を併用

「肝機能障害」のみ

禁止

注意

例

患者情報として予め「腸アトニー」を登録しておくこと、『ボラキス錠2』が処方された場合に、高齢者のみ「禁止」のチェックがかかります。

『ボラキス錠2』の添付文書（抜粋）

【禁忌】

衰弱患者又は**高齢者の腸アトニー**、重症筋無力症の患者【抗コリン作用により、症状を悪化させるおそれがある。】

『ボラキス錠2』のデータ（概略）

レベル	患者属性	条件（年齢）
禁止	高齢者の腸アトニー	65歳以上

「腸アトニー」で年齢が『65歳以上』

禁止

データベースの機能

禁忌病名をチェック

患者情報として予め疾患を登録しておくことで、その疾患に禁忌の薬品が処方された際のチェックにご利用いただくことが可能です。

処方内容の監査や患者さんへの服薬指導にご利用いただけます。

投与制限情報の表示

文章で記載されている禁忌病名に関する情報を個別の病名として保持しているため、個々に禁忌病名を表示してご利用いただくことが可能です。また、投与部位などの投与制限情報についてもご確認いただくことが可能です。

例

『ザファテック錠100mg』の添付文書（抜粋）

【禁忌】

重症ケトーシス、糖尿病性昏睡又は前昏睡、1型糖尿病の患者〔輸液、インスリンによる速やかな高血糖の是正が必須となるので本剤の投与は適さない。〕

『ザファテック錠100mg』のデータ（概略）

重症ケトーシス

糖尿病性昏睡

糖尿病性前昏睡

1型糖尿病

など

禁忌病名からの薬品検索

任意の病名が禁忌病名として添付文書に記載されている薬品を検索することが可能です。

例

「閉塞隅角緑内障」から、閉塞隅角緑内障に投与禁忌の『ウリトス錠0.1mg』などを検索することが可能です。

『ウリトス錠0.1mg』の添付文書（抜粋）

【禁忌】

閉塞隅角緑内障の患者〔抗コリン作用により眼圧が上昇し、症状が悪化するおそれがある。〕

薬品検索の結果例

デバス錠0.5mg

PL配合顆粒

ウリトス錠0.1mg

ディレグラ配合錠

など

※緑内障のうち、開放隅角緑内障や閉塞隅角緑内障などは緑内障と同義ではないため、同義語処理を行っていません。

